

松山議員

その他の質問
・成年後見制度について

エコミュージアムについて

Q 質問

①市長の招集挨拶で、今後エコミュージアムをジオパークにおいて推進していくと表明された。今後エコミュージアムの思想をどのようにジオパークの枠組みに生かし、どのような施策を推進していくかと考えているのか。

②エコミュージアム協議会とジオパーク推進協議会の関係はどのようになるのか。

③縦割りではなく横断型でしっかりとリーダーシップの発揮できる効果的な組織体制の環境を整え機構改革をすべき。

A 答弁

①エコミュージアムで培ってきたまちづくりの成果を、今後ジオパークとして推進していくための新たな施策については、市内推進組織体制の構築に合わせながらこれから立案していきたいと考えている。基本的な考えとしては、エコミュージアムの基幹事業であるわがまち助成事業は、継続し地域力・市民力の更なる向上を目指す事業にしていきたいと考えている。

一般質問

なく、情報共有を強化する中で、役割を分担し両者が両輪のごとくしたいと考えている。

③次の勝山市の機構改革では、エコミュージアムを基礎にしたジオパークをまちづくりに生かす組織を、新たに設置したいと考えている。

勝山市の防災関係について

Q 質問

災害発生時に必要な防災活動を想定して具体的な訓練内容を示すといった、技能・意識・知識の向上を図り、自主防災組織の活動活性化の「参考資料」となるような「防災訓練マニュアル」を作成すべき。

A 答弁

今回の県総合防災訓練にあたり、担当職員自らが避難訓練のマニュアルを作成し、要請のあった区に配布させていただいたが、今後は福井市などで作成されている「防災訓練マニュアル」などの事例を参考とし、自主防災組織の活動の一助となるよう、まずは職員で出来るものから手掛けたいと考えている。



防災ハンドブック

乾議員

その他の質問
・電算処理の効率化について
・高齢者福祉施設の大都市圏との連携について

学校教育について

Q 質問

福井県の小中学生の学力、体力が全国のトップレベルにある。当市の子ども達もその中にあり誠に賞賛すべきこと。反面、県内の子ども達の視力低下が全国でもとりわけ進んでいると聞く。当市の子ども達の実態はどうか。また、その対策の取り組み状況を伺う。

A 答弁

平成25年度における勝山市の小中学校における裸眼視力は、小学校36・9%、中学校70・0%と県内でも低い状況が見られる。

そこで、このような現状を少しでも改善するため、子どもたちの目の健康をテーマに、文部科学省の「学校保健課題解決支援事業」を実施したところである。内容としては、眼科医を招き教職員対象の研修会や保護者対象の講演会の開催や、各家庭への目の健康啓発のリーフレット配布など、重層的な働きかけにより、児童・生徒、教職員、保護者の目の健康に対する意識の高揚を図り、その対策について啓発している。また教室に「目の健康を守る3か条」を掲示、「目のリフレッシュタイム」の実施、小学校低学年・就学前園児へ「けんこうな目をつくるアイアイ

カード」を配布し、家庭における目による生活を促している。

恐竜博物館と学校における教育活動

Q 質問

恐竜博物館が国内外から高い評価を得ている。当時、恐竜が生息していたとされる地球の古代を再現し、大地の変動や生き物たちの進化の歴史に迫り、幅広い学問に裏付けされた構成になっている。学ぶべき点は多い。教材としてどのように活用しているのか。

A 答弁

市内小中学校においては、総合学習の時間にESDとして「ふるさと学習」の一環として、恐竜博物館を活用した学習を位置づけている。さらに、恐竜博物館の特別展を始めとする各種のイベントには、学校と連携し、毎回子どもたちが参加しており、多くのことを学んでいる。このように、勝山市では学校における学習活動を通して、恐竜に関して多く学び、「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」のふるさとを誇りに思うと共に、それを広くアピールできる児童生徒を育成していきたいと考えている。



恐竜博物館